



第6回すくわくプログラム

今月のテーマは「等身大の自画像を描く！」

しおどめ保育園稲城では、東京都の「すくわくプログラム」を通して、子どもたちが自分自身と向き合い、表現する時間を大切にしています。2月は「等身大の自画像」をテーマに、自分の体の大きさや形をそのまま紙に写し取り、全身を使ったダイナミックな制作活動に取り組みました。友だちと協力して体の輪郭をなぞり、自分の姿を改めて見つめるところからスタート。そこに色や模様を加えていくことで、“自分らしさ”が少しずつ形になっていきました。



みんなで輪郭なぞり

TOPICS-1 5歳児

5歳児クラスでは、自分の体の大きさをそのまま紙に写し取り、「等身大の自画像」を描きました。友だちに体のまわりをなぞってもらおうと、「こんなに大きいんだ！」と驚く姿も見られ、自分の体への気づきから活動が始まりました。輪郭の中に顔や服、模様を描き込みながら、「ここはこの色にしたい」「こんなふうになりたい」と、自分のイメージを言葉にして表現。絵の具を使って大胆に色を重ねる中で、一人ひとりの個性がはっきりと表れていきました。完成した作品は、まさに“自分そのもの”。自分を見つめ、表現する楽しさを存分に味わう時間となりました。



体の形を写し取る



顔や服を描き込む



色で自分を表現



等身大の自分完成

TOPICS-2 4歳児

4歳児クラスも、自分の体の大きさを紙に写し取り、「等身大の自画像」を描く活動を行いました。友だちに体のまわりをなぞってもらおうと、「大きいね!」「ここが手だよ」と声をかけ合いながら、楽しそうに取り組む姿が見られました。輪郭ができあがると、その中に顔や手足、洋服などを描き込み、自分の姿を少しずつ形にしていきます。「ここはピンクにする!」「ここは服だよ」と、一つひとつ確認しながら描き進める様子が印象的でした。絵の具で色をのせていくと、大きな紙いっぱい“自分”が広がり、完成した作品を見て「できた!」と嬉しそうな声も。自分の体を感じながら、表現する楽しさを味わう時間となりました。



体の形をなぞってみよう



世界にひとつの自分



世界にひとつの自分



自分の体をそのまま描く「等身大の自画像」は、子どもたちにとって“自分を知る”体験となりました。友だちと協力して輪郭をなぞり、自分の姿を見つめながら、「ここが手だね」といった気づきが自然に生まれていきます。色や模様を重ねることで、一人ひとりの“自分らしさ”が形となり、それぞれ異なる作品が完成しました。自分を感じ、表現する楽しさを味わう時間となりました。